

国土交通

2010.4 — 2010.5

特集
観光立国推進
日本の魅力再発見

No. 102



国土交通省

広報広聴憲章

1 私たちは、
わかりやすい広報に
努めます

2 私たちは、
国民のみなさまの声に
真摯に耳を傾けます

3 私たちは、一人ひとりが
国民のみなさまのための
広報・広聴を心がけます

特集「観光立国推進 ～日本の魅力再発見」

金屏風の前に座るのは、今回の特集に登場するアレックス・カー氏。書かれているのは、同氏とその師匠の揮毫による「明珠在掌（みようじゅたなごころにあり）」という文字。「探している美しい宝の珠は、すでに自分自身の手の中にある」という意味の禅の言葉です。

“日本人自身が見落としがちな日本の魅力＝宝”は、私たちが気づかないだけで、すぐ傍に埋もれているようです。

それを再発見することが、観光立国の推進につながるのかもしれない。



表紙
古都・京都は日本で随一の観光地。この街が多くの人々を惹きつけてやまない理由は、歴史的に常に重要な場所であったことはもちろん、時代が変わっても良いものは残していくという「京の心意気」、そして旅人の心を癒す「おもてなしの心」ではないだろうか。（写真は八坂の五重塔周辺）

CONTENTS

特集	
観光立国推進 ～日本の魅力再発見	
ルポ 京町家ステイ事業 「おもてなし」の心で磨いて 手元にある観光資源に輝きを	04
台湾民視電視台「GOGO JAPAN」 取材レポート 「テレビ番組が親善大使」	08
オピニオン 観光産業に活路を開く、 休日の分散化と移動コストの引き下げ 星野リゾート代表取締役社長 星野 佳路 氏	10
業務密着 ルポシリーズ	
現場力 File 3 海上保安庁 環境調査官	12
シリーズ探訪・探究	
訪れたいまち 広島県廿日市市宮島	16
MLIT 歴史アーカイブス	
測量の歴史	18
教えて国土交通省！	20
はれるんのお天気教室	21
記者席から	22
MLIT NAVI	23

ル
京町家ステイ
ポ

「おもてなし」の心で磨いて 手元にある観光資源に輝きを

古い造作を上品に表現

薄暗がりの路地を抜けて、黒い格子戸をがらりと開ける。杉皮で編んだ網代天井に明かりを埋め込んだ4畳半の玄関。漆喰張りの土間で炊かれた香が品を高める。リビングに向かうと、前方の視界がぱつ



町家の風情は京都の自然豊かな町並みに欠かせない

と開く。目の前には左から右に鴨川の流れ。自転車や徒歩で川沿いを行き交う人、その向こうを往来する車の流れが、左から右、右から左に重なり合う。
圧巻は、2階からの眺めだ。窓ガラス6枚分のワイドビューは、正面に清水寺の塔を、左手に大文字の山を望む。15畳敷きのこの和室からは、春夏秋冬、それぞれの京都を、独り占めできそう。

鴨川の眺めは、1階浴室にも取り込む。ヒノキの湯舟につかって正面を見やると、木製ブラインドの付いた縦長窓の向こうに、川の風景が切り取られる。
柱や天井の仕上げは、地元の北山杉を用いた丹念な造り。欄間には、「松竹梅」を手彫りで表現する。時代を感じさせる造作の一方で、浴室・シャワールームやトイレには、上質なホテルを思わせる水栓金具や陶器製品を取り入れる。

京町家ステイ「美濃屋町」――元は、昭和初期に建てられたと言われる医家の住まいだ。京都の繁華街に



独特の細い通路の先に佇む京町家

宿泊施設でなく貸家

京町家ステイ事業の最大の特徴は、町家を宿泊施設としてではなく、あくまで貸家を始める。



近い町家を1棟丸ごと貸し出す京町家ステイ事業の、10棟目の町家に当たる。

町家というのは、いま風に言えば都市型住宅。「うなぎの寝床」と言われる、間口に対して奥行きが深い区画割りの敷地に建つ例では、日差しが入らない敷地中ほどに中庭を置いて採光を確保したり、敷地の奥まで通り庭と呼ぶ土間を通して通風を確保したりする。

業を始める。

庵では同時に、伝統文化体験研修事業（オリジナル・アートプログラム）にも取り組む。これは、書道、茶道、古武道、能・狂言など日本の伝統文化に関して、京都を拠点に活動する講師陣から指導を受けるもの。同社では、体験・研修の目的、人数、予算、スケジュールなどに応じて、適切なプログラムを組む。本社事務所を置く町家の一角では、倉庫の跡を専用の体験研修施設として再利用する。

こうした事業に取り組む狙いは、どこにあるのか。カー氏は語る。「古い日本家屋の美しさを伝えていくということが、狙いの一つです。わたしにとっては、夢の実現とも言えます」。

カー氏が「夢」を描くようになった下地には、幼少時代の体験がある。

限界を突破するために

1964年、父の勤務の都合で来日した同氏は、少年期を横浜で過ごす。そして、友人関係を通じて、残っていた古い邸宅や別荘に出入りすることがあった。母の交友関係から、東京の邸宅に出入りする機会もあった。そうした体験を積み重ねる中で、カー氏は次第に、日本家屋の間取りを気に入っていく。

以来、日本家屋好きが高じて、来日すると、気に入った古民家を買って住めるように改修の手を加えるほどにまでなる。1973年には徳島の山里、祖谷（い）で、77年には京都郊外の亀岡でそれぞれ、古民家を手に入れる。京都で仕事に携わるときには、カー氏はいまでも亀岡の古民家を拠点に動き回る。



美濃屋町の町家2階。窓の外には鴨川、その向こうに清水寺を望む。京の夏の夜空を焦がす伝統行事「五山送り火」を眺めることもできる



Alex Kerr
(アレックス・カー)

1952年6月16日、米国メリーランド州生まれ。64年横浜の海軍基地に着任した家族とともに初来日。73年エール大学在学中に慶應義塾大学へ留学。74年エール大学卒業。77年オックスフォード大学修士課程修了。77年以降、少年期に体験した日本の美しさと失われゆく現状を国内外に訴え、次代へ残すべく、文化芸術活動の推進、講演、執筆、コンサルティング活動など幅広く行う。YOKOSO JAPAN!大使。
著書:「美しき日本の残像」新潮社、「犬と鬼」講談社
<http://alex-kerr.com/>

「オリジン・アートプログラム」で講義するカー氏。町家の滞在客が受講したり、修学旅行のコースに加えられることも。庵事務所の2階には、能舞台も設置されている



一方で、時代とともに失われていく古い日本家屋の美しさを残していこうと、文章や講演などを通じて、保存・再生を周囲に訴えかける活動に取り組んでいた。「亀岡では、わずかに残る町並みの保存・再生を地元呼びかけてみたものの、相手にしてもらえませんでした」（カー氏）。

日本で体験を積み重ねる中で膨らんだ夢、古い日本家屋の美しさを伝えるという夢の実現を、

カー氏は事業パートナーとの出会いを機に、京町家ステイ事業と呼ぶ実業の場で果たす。「美しい」と感じているものを、文章や講演でいくつ「美しい」と説いても、限界はある。その限界を突破しようとして、町家に改修の手を加えて、「美しさ」を体感できる形で提供する。

「古い家屋を残そうと言うと、文明的でない、と否定されがちです。しかし、古いものをそのまま残すわけではありません。パリに残る古いアパートも、建物の中は新しい。古い家屋は、暗く寒かったり、構造上の問題を抱えていたりします。だから、断熱工事を施したり床暖房を設置したりするなど、美しさに加えて、快適さを追求していく必要があります」（カー氏）。

暮らすように旅する

京町家ステイ事業に取り組むもう一つの狙いは、「旅館やホテルとは異なる良さを持つ『ヴィラ』と呼ばれるスタイルを提供していくこと」（カー氏）だ。同氏によれば、ヨーロッパの都市やアジアのリゾート地では、この貸家スタイルは一般的で、城を提供する例まであるという。

事業コンセプトとして打ち出す「暮らすように旅する」という考え方は、そこから生まれた。「旅館やホテルでは周囲は公共の空間なのに対して、町家ならすべて自分の空間です。子どもが走り回っても、気にしないで済みます。ふとんをどこに敷いてもいいし、朝寝坊してもいい。マイホームの感覚でいられます。それに、『町家に住む』ということ、実際に体験してもらうことができます」と、カー氏は説く。

スタッフを介した日常サービスの提供がない貸家事業だからと言って、「おもてなし」の心を欠くわけではない。カー氏は、京町家ステイ事業における「おもてなし」の心をこう語る。

「掃除やリネン類に関しては清潔を保つように心がけます。日常の暮らしに欠かせないインターネット環境は、改修の時に整備します。必要なサービスはきちんと提供していきます。その上で、町家に置く調度品にも気を使いますし、毎日、花を生けるような心遣いも欠かしません」。

「美しさ」を伝えるには、それを感じるだけの気持ちの余裕を持つってもらう必要がある



選び抜かれた調度品と上質の内装が宿泊客に心地良さをもたらす

る。だからこそ、居心地の良さは重要だ。暮らしのインフラを整えるのは当然として、そこにさらに、「美しさ」を引き立たせる仕掛けを加える、それが、カー氏流の「おもてなし」と言えそうだ。

もともと外国人観光客の利用を見込む京町家ステイ事業では、外国人を意識したサービス提供も心がける。「外国人を相手にする事業として心がけるのは、柔軟性を大事にする点です。例えば、『枕が固い』という声に対して、日本では『この枕しかありません』で済まされるかもしれませんが、外国人相手ではそうはいかない。相手の要望に何とか沿うように努める柔軟性が求められる

ます」（カー氏）。決められたサービスだけを提供するのはなく、相手の意向にできるだけ沿えるように努力する——なるほどそれは、日本ではまだ定着しているとは言い難い精神かもしれない。サービスの自覚を持たない事業では、なおのこと、そうだ。

珠が輝きを放つ

取り組みを始めてから5年目を迎える京町家ステイ事業。利用者の評判は、どうか。カー氏は語る。

「評判は上々です。当初の3年は知名度が低かったこともあって苦戦しましたが、ここ1、2年は、好調に推移しています。外国人観光客の利用を当て込んで始めた事業ですが、いまは、日本人観光客の利用が、全体の6、7割を占めています」。

利用の仕方には、取り立てて傾向めいたものは見られない。「利用者は、若者から中高年まで、幅広い年代にわたっています。2人連れの利用者もいれば、10人前後の団体も利用します。滞在する期間も、1日か



京町家には繊細な意匠が施されている。この床の間は珍しい三角形

ら1カ月まで、さまざまです」。カー氏は利用の実態を説明する。

京町家ステイ事業の波及効果と言っているのだろう。古い日本家屋の再生活用を図る事業に対する関心が、各地で高まってきた。カー氏によれば、庵ではいま、まちなかから山村・離島に至るまで計4つの地域で、こうした事業のコンサルティングを依頼されているという。

「高齢化、財政難、公共事業減、という流れの中で、観光に活路を見い出そうと考える地域が増えています。地域にもともとある古い家屋や町並みを生かせばいいのですが、生かし方がわからない。それで、わたしたちが事業を展開する町家を見たのでしょう、コンサルティングの依頼が来るようになりました」（カー氏）。

「明珠在掌」——。カー氏はこの言葉を好んで用いる。地域にある古い家屋や町並みは、まさに「明珠」。「おもてなし」の心でそれに磨きをかければ、カー氏らが再生活用を図る京都の町家と同じように、「珠」は輝きを放つのだろう。 ■



Iori

株式会社 庵

設立 2003年12月4日
資本金 119,925,000円
本社所在地 京都市下京区富小路通高辻上ル筋屋町144-6
TEL 075-352-0211
FAX 075-352-0213
取締役会長 Alex Kerr
代表取締役社長 梶浦秀樹
取締役 根岸良子

事業内容

- 京都モデル事業
 - 京町家ステイ事業
 - 伝統文化体験研修事業(オリジン・アートプログラム)
- コンサルティング事業
 - 町家・景観等再生～ステイ事業・レストラン事業の実践的サポート
 - 地域文化発掘～体験事業の実践的サポート
- 観光交流・発信事業
 - 観光・交流メニューの開発
 - 観光・交流情報の発信・販売

www.kyoto-machiya.com



庵の貸し出す町家は現在10棟。いずれも京都のまちなかにあり、それぞれ趣が異なるたたずまいとなっている。エアコン、風呂(檜、榎、石など)、シャワートイレ、インターネットアクセスが全棟に完備。観光コース・イベントの案内などのコンシェルジュサービスも充実している。利用料金は町家によって異なるが、今回取材した美濃屋町では2名45,000円～(時期・利用人数によって異なる)。

台湾民視電視台「GOGO JAPAN」取材レポート 「テレビ番組が親善大使」

近年急増しているアジアからの観光客。観光庁では海外からの観光客を増やそうと、2003年からビジット・ジャパン・キャンペーン※（以下VJC）を開始、中でも訪日旅行者数の割合の高い韓国、台湾、中国をはじめとしたアジア市場を重点市場としてプロモーションを展開してきた。開始から5年間で訪日客は314万人増加、そのうちアジア市場が増加の8割を占めている。

台湾で日本観光急増の起爆剤になったのは、VJCがバックアップする人気テレビ番組だった。



今年2月、栃木、福島、山形、宮城で10日間のロケを行ったのは、台湾最大の地上波テレビ局、民視電視台（以下民視テレビ）の人気旅行番組「GOGO JAPAN」。

この番組は、台湾のタレントが日本各地を訪ね、これまであまり知られてこなかった日本の観光地などを紹介するというもの。平成19年度からVJCの広告宣伝事業として、呼びかけに応じた地方自治体と協賛し合い、定期的に番組を制作して各都道府県

の魅力をPRしている。

今回台湾からやってきたのは、プロデューサーを含めた制作スタッフ、出演者、マネージャー、通訳、雑誌記者など、11名の取材クルー。出演者はVJC台湾観光親善大使であるライ・メーガンさんと、MCのアニータさん。雪になじみのない南国・台湾の視聴者に日本の東北の冬を紹介するのが目的だ。日本の旅行コーディネーターと、ロケ地ごとに入れ替わる各県の担当者が、一つのバスに同乗し県内の取材地を巡っていく。



仙台市にある鐘景園にて仙台簀簞料理を紹介する。この撮影の様子は地元メディアにも取り上げられた

でもとも行きやすい国です。常に台湾の行きたい旅行先ランキングの上位にランクインしていて、日本に特化したこの番組を作ったところとても反響がありました。台湾で放送しているすべての海外旅行番組の中で、トップをいく視聴率の高さです。視聴者からここに行ってみたいという声も多く、今まで台湾メディアにあまり取り上げられていなかったのに、番組放送後にその県のガイドブックが増えていたことも。番組の効果を感じています」。

台湾では日本のこういったところに関心があるのだろうか。陳氏はこう語る。「日本の魅力を挙げるとたくさんありますが、美術館や博物館にはとても興味があります。単純に物が陳列しているのではなく、お客さんが実際にふれ合ったり体験ができるといった独特な展示方法は、そのような施設が少ない台湾人には魅力的です。今回の取材先である宮城の感覚ミュージアムも印象的でした。日本は、都心だけでなく地方に行っても設備・サービスといったおもてなしが本

宮城県での2日間の撮影スケジュール

1日目	9:30	仙台市	秋保工芸の里／伝統工芸体験
	11:50		鐘景園／仙台簀簞料理の紹介（鐘景園にて昼食）
	13:20	大崎市	感覚ミュージアム／五感をテーマとする施設体験
	18:00		餅処「深瀬」／鳴子栗だんごの紹介
	19:00		鳴子温泉街／手湯の撮影（鳴子観光ホテルに宿泊）
2日目	20:00		
	6:40		鳴子温泉「滝の湯」／「滝の湯」の紹介（ホテル出発／バスにて朝食）
	8:30	塩釜市	塩釜水産物仲卸市場／買い物体験、マイ井撮影（バスにて昼食）
	10:30		
	13:00		えんふぁん。／塩スイーツ紹介
	13:30	松島町	松島遊覧船／松島湾内島巡り体験（南三陸ホテル観洋に宿泊）／撮影有
	15:00		
	17:30	南三陸町	

「GOGO JAPAN」
2004年8月に放送を開始し、台湾では最も歴史のある有名な日本旅行番組。

- 放送局 民視電視台
- 放送回数 年間総合計120回（再放送含む）
- 放送日時 日曜 夜6:00～7:00（本放送／地上波総合台）
土曜 深夜3:00～4:00（再放送／地上波）
日曜 夜9:00～10:00（再放送／デジタル交通台）

は自国の歴史や文化を大事にしている方が多く、そういったものを紹介して欲しいと言われることがよくあります。ですが、それだけではなくグルメやショッピングといった、視聴者の関心が高い要素を必ず入れ、バランスをとるようにしています」。

ロケ地である4県のうちのひとつ、宮城県では仙台市、大崎市、塩釜市、松島町、南三陸町を2日間撮影してまわった。実施にあたっては、地元の自治体が取材先の選定・交渉・手配などに協力している。今回ロケに同行した宮城県観光課の八木さんは、「ロケプランを立てる際、民視テレビからは単純な景色だけではなく、体験的なものを取り入れて欲しいとオーダーがありました。1カ所あたり撮影時間は2時間程度、1日の撮影で大きなポイントを4つおさえて欲しいと言われていたので、それらを踏まえたスケジュールを組んでいきました」と話



視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚といった五感をテーマにした感覚ミュージアム（大崎市）で、作品を体験するライ・メーガンさん



鳴子温泉街にある餅処「深瀬」で、ショーケース越しに撮影に協力するご主人。名物の栗だんごを紹介する



塩釜市にある「おとりよせスイーツ えんふぁん。」にて、撮影指示を出す陳プロデューサー。撮影に細かい台本はなく、現場に着いてからストーリーが決まる



一般のお客さんに交ざり、広い塩釜水産物仲卸市場を撮影してまわる。新鮮な海産物や市場の人たちの様子などを紹介していく

VJC台湾観光親善大使 ライ・メーガンさん

日本に来て驚くのは、毎回来るたびに新しい発見があることです。行く先々に違う魅力があって、日本の文化や歴史、伝統を感じています。今回のロケで行った仙台^{たんす}簀簞や簀簞料理も、まさに日本という感じで、台湾に持って帰りたいと思ってしまいました。

日本の旅館は、お抹茶とお菓子を用意して出迎えてくれたり、お部屋にも必ずと言っていいほどお菓子が置いてあります。そういうおもてなしを受けて、日本が大好きになりました。日本に来たら日本のルールやマナーを体験して、その土地の文化に触れる。〝郷に入れば郷に従え”ですね。ただ、唯一まだ苦手なものは正座です。足がしびれてどうしようもなくなってしまうんですね（笑）。

私は、日本に来る時は自分のカメラを欠かさず持ってきています。今日自分が見たもの、感じたもの、体験したものをカメラにおさめて、リアルタイムでブログにアップするようにしています。VJC 台湾観光親善大使として、そういった自分のブログや台湾のメディアを通じて、日本の素晴らしさを台湾の人に伝えていくつもりです。（談）



ライ・メーガン（賴 雅妍）
1979年12月5日生まれ、台湾・台北出身。大学卒業後モデルとしてデビュー。数々の人気ドラマや映画に出演し、歌手としても活躍の場を広げている。2007年4月26日にVJC台湾観光親善大使に任命された。

【市場規模が大きくなくても自動車に比べて低い生産性】

国内の日帰りと宿泊を合わせると、観光産業の市場規模は約23兆円に達します。一方、海外から日本を訪れる「インバウンド」と呼ばれる市場の規模は約1.5兆円。国ではこれを、約3倍に増やしているというとしています。目標を達成できたとなると、市場規模は全体で約28兆円。自動車産業の半分もの規模になります。観光産業はすでに大きな産業に育っています。

ところが、自動車産業に比べれば生産性が低いだけに、利益を生み出す力が弱い。利益を生み出す力が弱いと、資金を設備投資に振り向けられません。優秀な社員を雇うこともできません。

生産性が低い理由はいくつか考えられます。サービスを提供する施設側の課題と、それを享受する顧客を取り巻く課題に分けて考えましょう。

施設側の課題としては、プロとしての意識の欠如という点を挙げる事ができます。歴史が古い業界だけに、古い習慣・体質がまだ残っています。そうした中で、競争意識が低かったり、海外の観光地に顧客を奪われているにもかかわらず、それに対する危機感が弱かったり、プロ意識を欠いている面があります。

顧客を取り巻く課題としては、一つは、休日が集中している点を挙げることができます。ゴールデンウィークやお盆・年末年始を中心とする年間100日に需要が偏っている、その赤字で残る265日の赤字分を埋め合せているようなものです。

観光産業に活路を開く、休日の分散化と移動コストの引き下げ

星野リゾート代表取締役社長

星野 佳路 氏

【自然に顧客満足度の高い施設に集中するように】

では、生産性を高めて、利益を生み出す力を付けるには、どうすればいいのでしょうか。

まず、休日の分散化を図ることです。年末年始やお盆は時期を動かさないのも、最も可能性があるのは、ゴールデンウィークです。人口の集中する関東圏では地域を区分けて、ゴールデンウィークの休みを取る時期をずらすようにすればいいと思います。

日本全国に整備されている空港や高速道路といった交通インフラを活用して、移動コストを下げる努力も欠かせません。地方の観光地からすると、まず東京の人に来てほしいというから、羽田空港と成田空港の発着枠を経済規模に見合った大きさにまで広げた上で、二つの空港の差別化をする。例えば、東京から札幌に向かうビジネス客は、時間の勝負ですから、運賃の少々高い羽田から出発する。北海道に一週間滞在する家族客は、格安運賃が設定されている成田から出発する、というようなことも考えていいのではないだろうか。空港を使い分けることで、移動コストの引き下げを図ります。

休日の分散化や移動コストの引き下げを図ることで、人は、自然に顧客満足度の高い施設に集中するようになります。そして、設備投資で施設の充実を図ったり優秀な社員を雇ったりすることで、ますます満足度を高めていきます。新規の投資なしに利用者に喜ばれることができるのは大きな魅力だと思います。（談）



Profile

星野 佳路 (ほしの よしはる)

1960年長野県軽井沢町生まれ。83年慶應義塾大学経済学部卒業。米国コーネル大学ホテル経営大学院修士課程修了。91年(株)星野リゾート社長に就任。96年美食のホテルとして軽井沢ホテルプレストンコートを開業。2001年リゾートレー、03年アルツ磐梯リゾート、04年アルファリゾート・ト・マムと、リゾートの再建に取り組む一方、本拠地に05年星のや軽井沢を開業。05年ゴールドマンサックスとの業務提携を発表、温泉旅館再生にも新たな力を注いでいる。国土交通省成長戦略会議委員。観光力リスマ。

▶星野リゾート

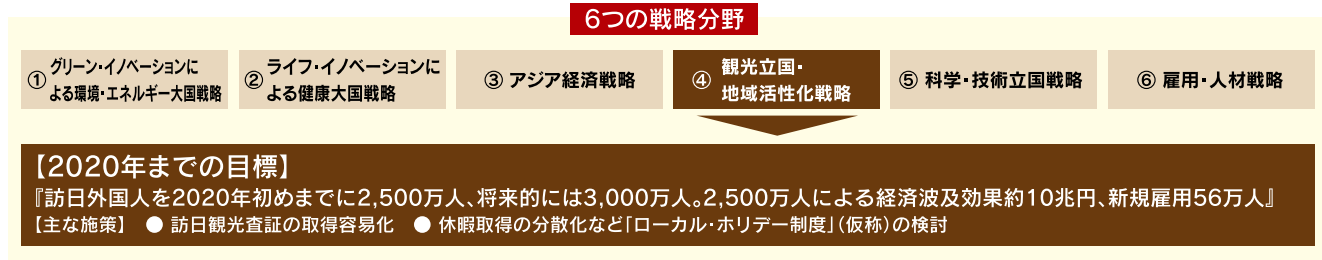
<http://www.hoshinoresort.com>

観光立国の推進

2009年12月30日、「新成長戦略(基本方針)～輝きのある日本へ～」が閣議決定されました。

2020年、10年先を見据えて実行する6つの戦略分野の一つに選定されたのが、「観光立国・地域活性化戦略」です。

※観光庁ホームページ <http://www.mlit.go.jp/kankocho>も併せてご覧ください。



観光は少子高齢化時代の地域活性化の切り札

日本には、自然、文化遺産、多様な地域性など、豊富な観光資源があり、観光のポテンシャルは極めて高いものがあります。例えば、南国の台湾の人々は雪を見に北海道を訪ね、ヨーロッパの人々は伝統文化からポップカルチャーまで日本の文化面に関心をもち、朝の築地市場など生活文化への関心も高くなっています。日本を訪れる外国人の間で、国によって訪れる場所や楽しむ内容に大きな違いはありますが、その多様性を受け入れるだけの観光資源を地方都市は持っています。

また、日本全国には、エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光などの観光資源が豊富にあり、外国人だけではなく、日本人にとっても魅力的な観光メニューを提供することができます。

公的支出による地域活性化を期待することが難しい現在、人口減少・急激な少子高齢化に悩む地方都市にとって、観光による国内外の交流人口の拡大や日本独自の文化財・伝統芸能などの文化遺産の活用は、地域経済の活性化や雇用機会の増大の切り札となります。

訪日外国人を2020年初めまでに2,500万人に

急速に経済成長するアジア、特に中国では、観光需要が拡大しています。しかし、中国から日本を訪問する旅行者数は年間約100万人、日本から中国を訪問する旅行者数は年間約340万人(いずれも2008年ベース)と大きな開きがあります。人口増加や経済成長のスピードを考えれば、中国を含めたアジアからの観光客をどう取り込むかが大きな課題です。

今後、アジアを始めとした各国からの訪日外国人の増加に向けて、訪日観光査証の取得容易化、魅力ある観光地づくり、留学環境の整備、広報活動などを図ることで、訪日外国人を2020年初めまでに2,500万人、将来的には3,000万人まで伸ばすことを目標としています。

また、観光立国にとって不可欠な要素として、交通アクセスの改善と合わせて安全・安心なまちづくりを進める必要もあります。

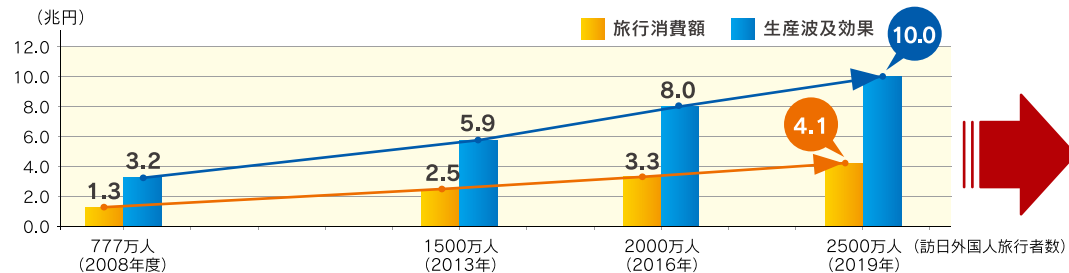
休暇取得の分散化など

国内旅行の市場は、約20兆円の規模があります。ところが、休日が集中しているため時期による繁閑の差が大きく、需要がゴールデンウィークや年末年始などに集中する結果、“旅行機会の損失”“ビジネス機会の損失”も多いと言われています。

このため、休暇取得の分散化などの検討や、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりなどを通じた国内の観光需要の顕在化など、総合的な観光政策を推進し、地域を支える観光産業を育て、新しい雇用と需要を生み出していくことにしています。

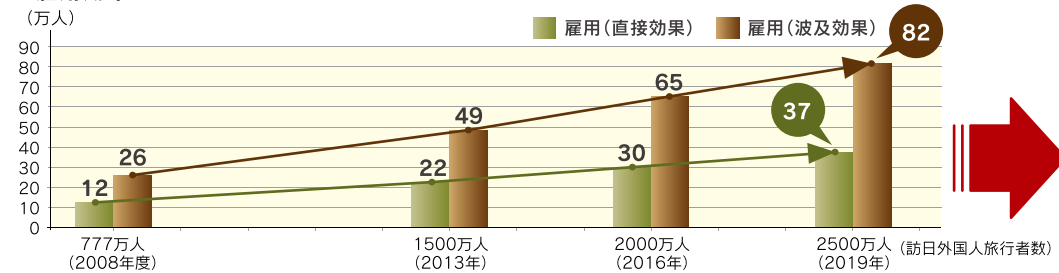
訪日外国人旅行者による経済効果など

<旅行消費額・生産波及効果>



2008年度に比べ
約3倍の経済効果

<雇用効果>



2008年度に比べ
雇用効果も約3倍に

※2007年度の消費額は日本銀行「国際収支統計」による。「国際収支統計」では滞在期間が1年以上となる長期留学生による消費額等も含め推計している。
※2013年以降の旅行消費額については、JNTO「訪日外客消費動向調査2007-2008」を基に、観光庁試算。
※生産波及効果等の試算には、2000年産業連関表を使用。
※現時点での試算であり、今後大きく変更する可能性がある。

現場力

File 3

海上保安庁 環境調査官

海は多くの恩恵をもたらすが、時に危険をも運んでくる。島国に生きる私たちが安心して暮らせるよう、海の科学的調査を行っているのが海上保安庁海洋情報部に所属する環境調査官だ。海で、陸で、日々調査に明け暮れる調査官の業務に密着してみた。



1. 築地市場のすぐ近くにある海上保安庁海洋情報部 2. 化学実験室では3人の環境調査官が日々業務をこなす 3. 海水を処理する茂木。水槽に入っている白い棒が、海水と薬をかき混ぜていく 4. 先端を真っ直ぐ切り取ったスプーン

海の定期健康診断

海上保安庁と言えば、映画「海猿」で有名となった潜水士。そんなイメージを持っている人は少なくないであろう。人命救助のために海に潜る彼らの姿は人々に感動を与えたが、その海を守るため、海洋調査に取り組む人々もいる。

まず訪れたのは、東京・築地にある海上保安庁海洋情報部。「化学実験室」と掲げられた一室に案内された。ドアには「許可なくして立ち入りを禁ず」という文字。恐る恐る入ると、そこには巨大フラスコのようなものや、試験管、薬品の入ったビン、測定機器などが立ち並び、見覚えのある懐かしい化学式がところどころに見られる。そこに、白衣を身にまとい、各々試験管などを見つめる3人の環境調査官がいた。

そのうちの1人、茂木由夫は、海洋汚染調査室に延べ12年在籍するベテランの調査官。海洋汚染調査室では、「海洋汚染調査」と「放射能調査」の2チームに分かれ、測量船や巡視船に乗って海水・海底堆積物を採取し、科学的調査を行っている。海洋汚染を防ぎ、海洋環境を保つためデータを収集するこの仕事は、いわば海の定期健康診断のような役割を果たしている。

「放射能調査」を担当する茂木は、東海大学海洋学部出身。核廃棄物の海洋投棄や、核実験などの影響により生じる人工放射性物質の調査を行っている。10代まではそんなに海に興味はなかったという茂木だが、それが変わったのは大学に入ってからだという。「大学で海の面白さを知って、専門知識を生かした海洋調査関

係の仕事に進もうと思ったんです。そんな時、この仕事をしていた先輩にクラブのOB会で会ったんですよ。その先輩がOB会に来なかったら、海上保安庁にこんな仕事があるなんて知らなかったと思います。先輩のおかげです」と照れながら話す。

風鈴の音が響く実験室

日常の業務を見せってもらうことにした。ダンボールを開け始める茂木。中身はパツクに入った20ℓの海水。実験室には、実際に茂木たち環境調査官が海で採取してきた海水・海底堆積物の試料以外に、全国各地で採取された試料が届けられる。多いときには最高300個程のダンボールが集まるそうだ。この試料を3人の調査官が地道に処理していくのだが、想像するだけでもかなり根気がいる作業である。取り出した海水を水槽に入れていく。巨大フラスコの正体は、海水を処理するための水槽だった。水槽にすべて入れ終わると、先端がイカリ型になった棒を水槽中央に入れ、機械で回転させ始める。試料を均一にするためだ。そこに黄色い粉末の薬を投入。みるみるうちに薬はかき混ぜられ、水槽が黄色に染まっていく。

薬を投入する茂木の右手には、粉末を入れるためのスプーンが。このスプーン、よく見るとすくう部分の先端が、弧を描かずに真っ直ぐに切られている。「普通のスプーンだと水槽に薬をストンと落としかれることができます。粉末が飛び散ってしまふんですよ。そこで試しに先端を切ってみたら案外上手くいったの（笑）」。

こんな工夫は実験室のあちこちで見たとれた。例えば、流し場に置いている純水を造りためるタンクの排出口の先に取り付けられた風鈴。どうしてこんな所に風鈴が？と不思議に思っていたのだが、実はこれ、タンクから水があふれた時に風鈴の音が知らせてくれるという。お手製センサー。あふれた水が風鈴の短冊にあたって音を鳴らすという仕組みだそう。試しに鳴らしてもらうと、確かに「チリンチリン」と、実験室に雅な音が響く。茂木の先輩が百円ショップで買ったものだそうだが、左右に振られやすいように短冊を切るなど知恵が光る。

「家で昼寝していたら隣の家から風鈴の音が聞こえて、水があふれていると思って飛び起きたことがありますけどね」と苦笑する茂木。風流な仕掛けにも、意外な欠点があったようだ。

調査官たちはテキパキと作業をこなしていく。作業の合間にはファイル片手に分析の内容確認をしながら、コミュニケーションも欠かさない。実験室では黙々と作業が行われているのかと思っただが、笑い声も飛び交い非常に和やかな雰囲気。「この小さい山がセシウム137ですね。で、このカリウム40は」。分析装置のモニターを見ながら茂木の説明を受ける。必死に耳を傾けるが、専門用語が多く素人にはチンプンカンプン。生き生きと説明する茂木はやはり研究者だなとうなずいてしまう。

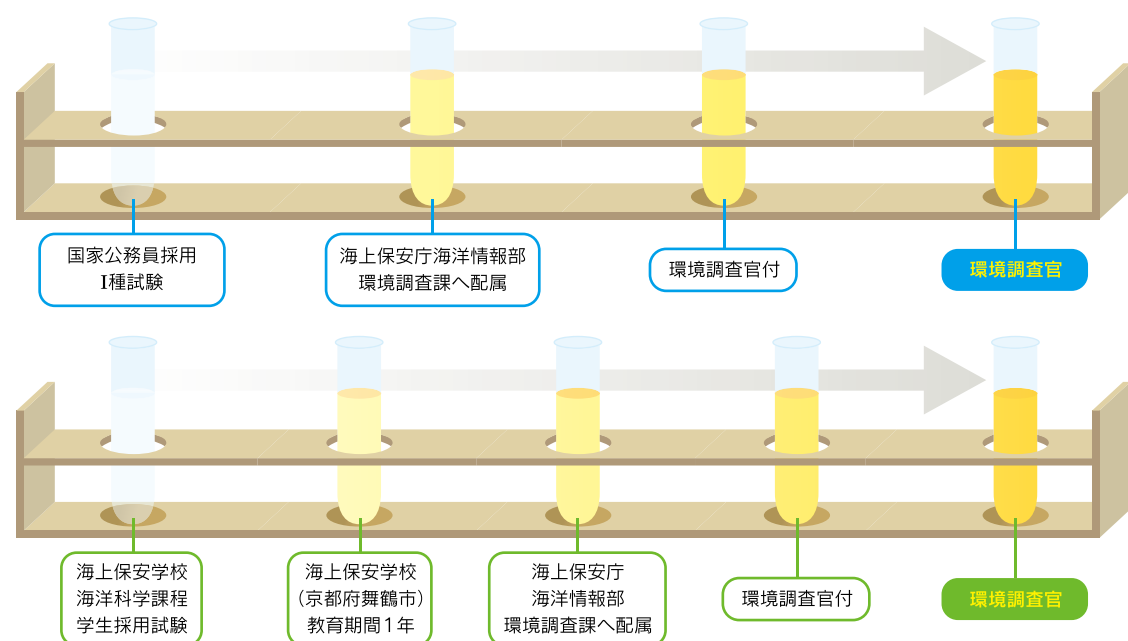
大海原で合わさる呼吸

築地の実験室を後にし、測量船を見るために茂木とともに海へ向かった。お台



5. あふれた水にあたって音を鳴らす風鈴 6. 右から環境調査官の杉本綾、茂木、環境調査官付の湯永（がたなが）裕之。「茂木隊長のもと、3人でがんばっています」（杉本） 7. こまめにお互いの作業内容を確認し、ミスを防ぐ 8. 実験用途に合わせた薬によって、多彩に色付けられる海水 9. 日本各地で採取された海底の泥 10. 11. 分析装置でデータを収集する 12. 日本に2台しかないという測定器。鉄でできており、重さは4tもある 13. 実験室での作業に欠かせないピンセット、マジック、pH試験紙、フィルムパッチ（個人の被ばく線量を測定する）、ファイル。茂木が10年以上使っているファイルには、びっしりと手書きのメモが書き記されている 14. 実験の合間や実験終了後には事務作業も。これも大事な仕事のひとつだ 15. 採泥器。これをワイヤーで海に投入する 16. 海を背に、実験室とは違う開放的な笑顔を見せる茂木 17. 茂木と船内で打ち合わせをするのは拓洋観測科 主任観測士の松村治寿（はるひさ）。環境調査官とともに乗船する 18. 拓洋に搭載されている小型測量船。無人操縦が可能 19. クレーの呼吸を合わせ採水器をワイヤーで引き上げる 20. クルーとともに多くの海を渡る拓洋 21. 分析室は船内にも備わっている 22. あちこちで採取した海水をデッキで天日干し 23. 航海中の茂木（写真左）。その笑顔に海での作業のやりがいを感じられる 24. 茂木が航海に出た際、自身で撮影した景色。船上から見る光景はさぞ美しいであろう

環境調査官への代表的なキャリアパス



海上保安庁職員採用情報はこちら▼

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/saiyou/index.html>

場の海に雄々しく浮かぶのは、海上保安庁所属の測量船の一つ「拓洋」^{たつよう}。この船、何と世界最深部の測量記録を持つという強者なのだ。

タラップを登り、船の中へ。船内は部屋数も多く、思った以上に広い。当然ではあるが、測量船に乗り込むクルーは環境調査官だけではない。船の大きさにもよるが、この拓洋だと総勢35名程のクルーが乗船するそうだ。

デッキに行き、採泥器を見せてもらった。その名の通り海底の泥を採取する器具である。この採泥器をワイヤーで垂らしながら真っ直ぐ海に降ろし、着底したら泥をつかませ、再びワイヤーで引き上げる。分かりやすく言えばUFOキャッチャーのようなイメージ。しかしそこは自然が相手、そう簡単には運ばない。風や波に邪魔されながら、タイミングを見計らって行わなければならないのである。何より大事なのはクルーの呼吸だという。「船が揺れないように調整してもらうところから始まって、ワイヤーの上げ下げ、泥をつかませるタイミングなど」。失敗もありますけど、呼吸を合わせて、船と一体となってみんなで採っているという感じです」（茂木）。

一度航海に出ると、短くて1週間、長くと20日近くかけて試料の採取をする。作業は日の出から日没まで。海に出ている間はもうろく休みはない。

「海が時化てるのに、どうしても採らなくちゃいけない時は本当に大変です。でも、その分採れた時はよっしゃ！ってなりますね」。そう話す茂木の顔は、実験室での「研究者の顔」から「海の男の顔」へと変わっている。

船に乗り込んで海水・海底堆積物の試料を採取するところから、持ち帰って試料の測定・分析、そして報告書にまとめるところまで、一連の作業をすべて請け負う環境調査官。割合で言うとうと、海で過ごす時間より実験室で過ごす時間の方が多し。「ずっと実験室で分析ばかりやってると、『海に出たい』ってなりますね。大海原での作業は都会の喧騒を忘れさせてくれます」。

そんな茂木が分析、試料採取に共通して行っていることは、「少しでも効率的に作業できるように工夫し、事前にイメージを建てること」。イメージ倒れになることもあるが、作業過程でのミスの発見につながることもあり、五感を大事にして作業しているそうだ。

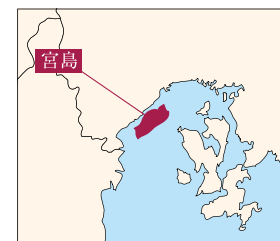
「最初から最後まで自身で携わることができるこの仕事は、とてもやりがいがありますが、決して一人ではできないですね。ありきたりな話かもしれないけど、海でも実験室でも、常にチームワークで動いています。誰か一人で試料を採取できるわけじゃないし、一人でできる分析量もたかが知れていますから。お互いカバーし合いながら、みんなで一緒に日々調査に取り組んでいます」。

力強く話す茂木に、広大な海を調査するこの業務は、多くの手によって支えられているのだと改めて気付かされた。

生命を育み、生活に欠かすことの出来ない海。今日も茂木は海と向かい合い、そして私たちの前には美しい海が広がっている。

多くの手によって支えられる業務

広島県廿日市市宮島



安芸の宮島は、松島(宮城県)、天橋立(京都府)と並び、言わずと知れた日本三景の一つ。紺碧の海に浮かぶ朱色の大鳥居や美しい厳島神社が容易に思い浮かぶ「神の島」。そんな宮島に、ここ数年、新たに注目を浴びるスポットがあると聞き、訪れてみました。

「宮島の宝物を皆さんへ伝えたいんですよ。せっかくあるのに、もったいないけん」

開口一番、このような答えが返ってきた。「宮島の宝物」とは、厳島神社はもちろんのこと、神社の歴史と密接なかわりを持つ寺院や遺跡、加えて町民文化の足跡であるという。

宮島を愛する「宮島人」たちは、昭和に入ってから観光形態の変化により、人が賑やかな表参道に流れ、昔からの生活が詰まった宮島の原風景、例えば小路一つでも、存在が忘れ去られてしまうことをずっと危惧していた。

この想いを形にしたものが「宮島の案内絵図」として、平成13年に誕生した。旧宮島町と観光協会が主体となつて発行したもののだが、宮島を良くしたい、元気にしていきたいと願う人々が力を合わせ、より歩きやすく、より親しみやすく、詳細に町内の様子を描き込んでいった。

「町家通り」「山辺の古径」など、今こそ観光客にも広く認識され、愛着



を込めて呼ばれている通りの名前も、実はこの時に名付けられたという。例えば「表参道」に対して漠然と「裏通り」としか呼ばれていなかったものを「町家通り」として位置づけ、随所に美しいレリーフやあんどんを付けていく。何気ない日常に、様々な仕掛けを埋め込んでいくと、住民の意識も変わる。日常の生活の場所、それ自体の存在意義が見直され、誇りと自信が増していく。

この時のレリーフの一つひとつを、作り上げたという藤井さんのお話を伺うことができた。「昭和の観光もいい。けれども宮島にはもっと違う見せ方もあるのです。ここに住まう人が、宮島のために何かできないか。この取り組みから我々の気持ちに、一層強いつながりが生まれまし」

穏やかな口調だが、町の再生を志し、一步一步実績を積み重ねてきた自信が伺える。想いはどんどん連鎖していく。時代の流れとともに失われかけていく町家を保存し、再生していこうという機運も高まっていた。町家の建築様式やその文化を後世に遺したいという人々の熱心な活動によって、宮島の街並みは支えられている。

「宮島にあるすべてが宝物じゃけん。石ころさえも、松の木一本でさえも、愛おしくてならないんよ。ほいじゃけんこれからも、ずっと宮島を元気にしていくから。楽しみにときんさいね」

船附さんの言葉が胸に響く。こうした人々の熱い想いによって、宮島はどんどん輝きを増している。

これからの、まだまだ眠っている宮島の宝物が発掘されていくのだろう。しかし、なによりも、大切な宝がある。それは、これほどまでに宮島を愛する住民自身の心意気。これこそが今回見つけた最高の宝物であった。



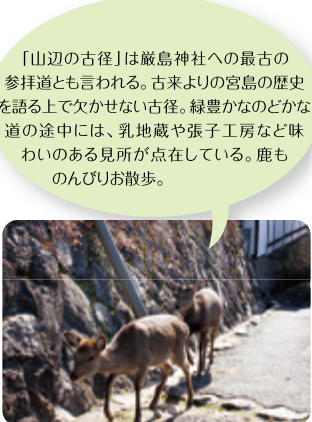
「ざらりい宮郷」のオーナーご夫妻。宮島杓子の問屋だった面影を随所に残しながらギャラリーとして再生した。町の人々の憩いの場となるとともに、外部の芸術家の拠点ともなっている。美術の造詣が深い宮郷さんご夫妻の温かい人柄に惹かれてリピートする観光客も多い。



小路一つひとつが宮島の人にとっての大切な宝物。古の由来があるものはそれを活かし、また、子供の頃の思い出や愛着を込めた名前のレリーフを付けていった。



小路にあるレリーフを作成した工芸作家の藤井克則さん。各家の軒下にアーティストの作品を飾る「軒下アート」を企画するなど着々と活動が続けている。柔和な語り口だが、宮島を愛する強い想いが伺える。「これからも宮島の宝物を発信していきたい」。



「山辺の古径」は厳島神社への最古の参拝道とも言われる。古来よりの宮島の歴史を語る上で欠かせない古径。緑豊かなのどかな道の途中には、乳地藏や張子工房など味わいのある見所が点在している。鹿ものんびりお散歩。



文具・雑貨店「古色さき」を営んでいる「ももちゃん」こと佐々木百代さん。優しいまなざしで、宮島の人々を見守っている。小学生の時から、お世話になっている人も多いとか。変わらない生活を守り続ける、町家通りの看板娘。



「町家ホテル・菊がわ」の菊川照将さん。失われていく町家に対して危機感を抱き保存活動に取り組んでいる。町家建築に対して高い美意識、こだわりを持つ。こんな菊川さんを頼って外部から移り住み、町家再生に取り組む若者もいる。「想いと空間があれば人は寄り添うようになります」。

魅力ある観光地として

国土交通省は、自然、歴史、文化等において密接な関係のある観光地同士が連携し、2泊3日以上滞る型観光に対応出来るよう魅力を高めようとする区域を観光圏として認定しています。今回の宮島は、「広島・宮島・岩国地域観光圏」として、平成20年に認定されています。

<http://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/kankochi/seibi.html>

廿日市市ホームページ
<http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/>
宮島観光協会ホームページ
<http://www.miyajima.or.jp/>



新たな町おこしのきっかけとなった「宮島の案内絵図」。裏面には「みやじま自然散策マップ」も載っている。※宮島観光協会案内所にあります。



国というものが形成されるようになって、政（まつりごと）を行う者は、自分の領土を測量し、実権の及ぶ範囲を把握するようになりました。測量技術が高ければ、経済、軍事などの面で有利に働き、国家の発展にもつながっていきました。

平面の測量

古代の測量としては、天体観測によってピラミッドなどを配置した紀元前2500年頃のエジプトが有名です。この高度な測量技術により、ナイル川が氾濫した後でも土地の境界を復元することができ、農業の振興に役立ったと言われています。しかし、その後数千年の間、局地的に正確な測量を行うことは可能でしたが、広域な地図については、想像を交えて作成する絵図ばかりでした。

15世紀になって大航海時代が到来して行動範囲が広がると、精度の高い広域地図が必要となり、正確な測量を行わないと整合が取れなくなってきました。そこで、16世紀に入って三角測量が発明され、数学的に正確な測量が初めて実現できるようになりました。

国全体を覆う本格的な三角測量は、ルイ王朝時代のフランスで17世紀に開始され、18世紀になると他の欧州諸国で行われるようになりました。19世紀になると、インドなどの植民地や新大陸アメリカでも大規模な測量が行われ、世界の形が確定してきました。

が利用され、平成に入る頃からGPS（Global Positioning System：全球測位システム）が利用され、測量の精度はどんどん上がっていきました。測量の精度が向上すると、既存の地図と整合が取れなくなってしまうことは、大昔から変わりがありません。このため、三角測量の導入↓5万分の1地形図、空中写真測量の導入↓2万5千分の1地形図、GPS測量の導入↓基盤地図情報（官民共通で活用できる地図データ）というように、測量技術の進歩に合わせて地図の精度を向上させてきました。

高さの測量

平面だけでなく高さの測量も忘れてはなりません。高さの測量の歴史は、水道の歴史でもありました。都市化とともに遠方の水源から水を引くことが必要になります。長距離の場合、途中で下り過ぎると都市まで水を届けられないため、地形に沿って緩やかに傾斜させなければなりません。

紀元前300年頃のローマ帝国では、地形を正確に測量し、10km当たり3mという非常に緩やかな傾斜を実現し、「ローマ水道」と呼ばれる長さ数十キロの水道が何本も作られました。世界で最初の100万都市といわれるローマは、高度な測量技術があったからこそ発展できたわけです。

日本では、戦国時代が終わって江戸時代に入ると、農業の振興が図られ、

国土交通省には、みなさんの生活の基盤を支えるため欠かせない仕事が多く存在します。それらが現在に至るまでの背景には、先人の知恵や技術を受け継いできた長い歴史があります。今回は、地図で国土の全貌を把握し、土木・建築にも欠かせない「測量」の歴史にせまります。

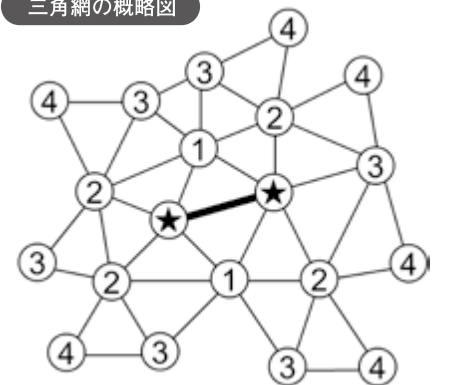
国土地理院企画部 国際観測企画官 田村 栄一

測量の歴史

三角測量とは？

三角測量とは、小学校で学ぶ「二角挟辺」という三角形の合同条件に基づくもので、2つの頂点（図の★部分）を既知として残りの頂点を求める測量のことです。何度も測り直さなくても済むようにするため、それぞれの頂点に石を埋め、三角点と呼んでいます。三角点を置き、次々と三角形を網状に形成していったものを三角網といいます。

三角網の概略図



2点の★の位置と両点を結ぶ線を巻尺などで正確に測り、その線を基準として番号順に三角点を設置していく

日本では、豊臣秀吉による「太閤検地」など土地を把握する試みはありましたが、高精度な広域測量といえるのは、1800年頃から行われた伊能忠敬による全国の測量が最初です。17年かけて完成した「大日本沿海実測図」は、全国各地で展示会が行われてきましたので、ご覧になった方もいるでしょう。

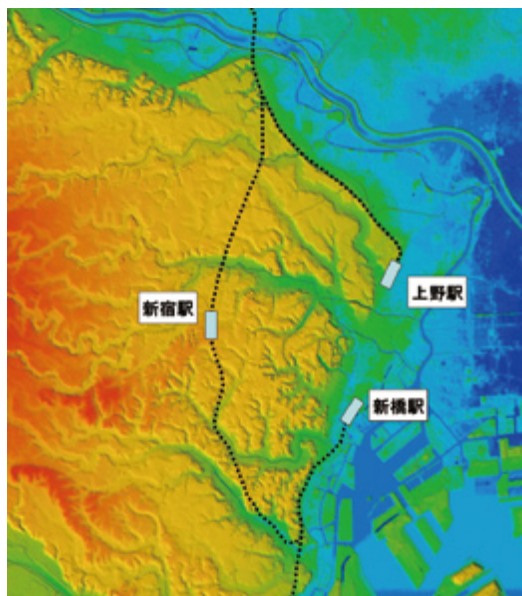
伊能図は海岸線や街道が主体でしたが、明治時代になり、農地開発や軍隊配置を計画するため、「劔岳」という映画にもあったように、全国に三角点を設置し、地図作成を行うことになりました。三角点同



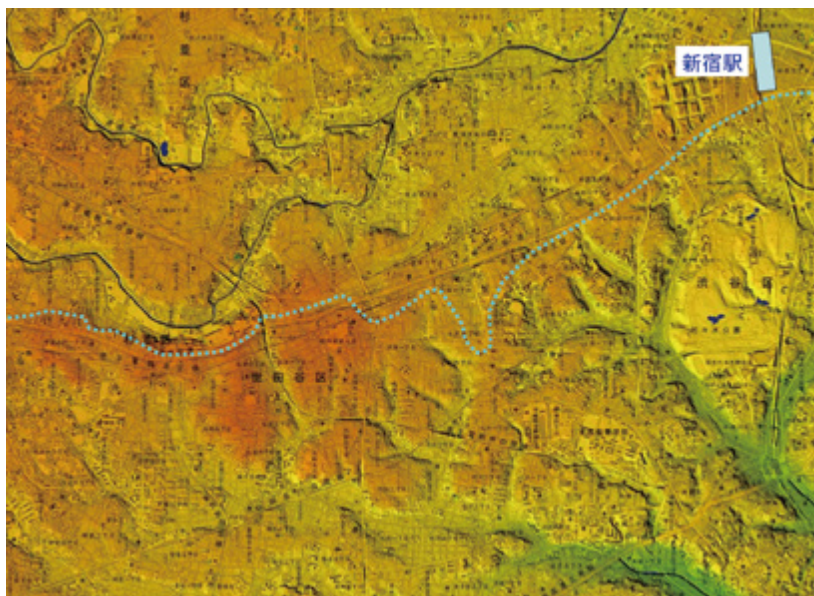
中部・近畿地方の伊能図
海岸線と街道沿いに測量を行って地図を作成した

関東平野、濃尾平野などに長さ数十キロの上水を建設し、新田開発を行うようになりました。都市化の進んだ江戸では、玉川上水、千川上水などが建設されています。通常、河川は谷を流れますが、上水は周囲の住宅・農地への配水が目的のため、尾根を流しています。みなさんの地元にある上水について、地形と比較する機会があれば、確認してみてください。

明治時代になると、鉄道の建設が開始されましたが、当時の鉄道は登坂能力が低いため、緩斜面を選んで建設する必要があります。そこで、自由に利用できる高さの基準として、全国に水準点を設置していきました。水準点の設置により、離れた場所の高さを簡単に比較することができるようになり、鉄道建設、河川改修など、効率的な土木・建築を行うことが可能となりました。



明治20年頃の東京中心部の鉄道路線と主要駅
勾配を緩やかにするため、地形に沿って建設したことがわかる



新宿付近の玉川上水の流路
周辺の住宅や農地に配水するため、尾根を選んで建設したことがわかる

この教室では、気象庁マスコットキャラクターのはれるん  が、気象について教えてください。

3時間目は「気温の測り方」について学びましょう。

はれるんのお天気教室

新緑が目美しい季節になりました。
この時期は、夏のように暑い日や、
肌寒い日があったりと、
毎日の気温変化が大きく
体調を崩しやすくなります。
ところで気温はどこで、
どうやって測っているのでしょうか？
…そう、温度計で測っているのですが、
そこには天気の詳細家の
深～い工夫が凝らされているのです。



3時間目
気温の
測り方



百葉箱(昔懐かしい?)
かつては自然通風式の百葉箱を使用していました。

気象庁の気温の観測は、電気式温度計を用いて、風通しや日当たりの良い場所の芝生の上1.5mの位置で観測しています。

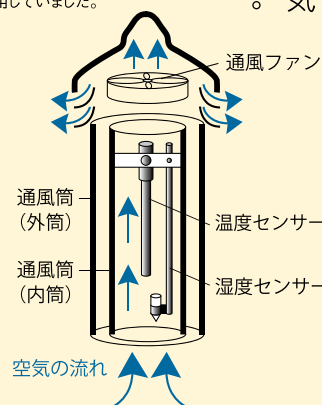
屋外で気温を正確に測るためには、日射や風雨の影響を受けないようにする必要があります。このため、上部に電動ファンを設けた通風筒の中に温度計を入れ、筒の下から常に一定の速度で外気を吸い込みながら、気温を測定できるように工夫しています。

また、定期的に基準の温度計と比較観測をすることにより、観測機器の精度を維持しています。

このような仕組みで、正確な気温を24時間ずっと測定しています。みなさん、わかりましたか？



通風筒
断熱材が入った内外二重円筒の構造で、この中に電気式の温度計と湿度計が入っています。さびにくいステンレス製で、内部を直射日光や雨から保護しています。



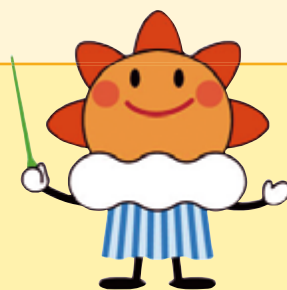
はれるんプロフィール

名 前:はれるん(気象庁マスコットキャラクター)
種 別:地球の自然(太陽、雲、雨)
所 属:気象庁総務部総務課広報室
趣 味:天気予報

仕 事:国民の気象庁に対する親近感を深めること。

その他情報:

特技は、雲の襟巻きを回転させ、空を飛ぶこと。(地球上に災害が発生しないよう監視するため)
各地のお天気フェアや気象友の会の見学会のほか、気象庁HP、気象庁一階にある「気象科学館」で会うことが可能。



教えて国土交通省!

国土交通省に寄せられた、普段の生活で感じたふとした疑問や質問などを紹介するこのコーナー。
今回は、地価公示と海上を渡る国道に関する2つの質問にお答えしていきます。

Q

地価公示ってなに？

子どもが大きくなり、現在住んでいる家を手狭になってきたので新しく家を建てようと土地を探しています。折り込みチラシや不動産情報誌などで検討していますが、土地の価格についての判断は地価公示を参考にすればよいと聞きました。そもそも地価公示とはどのようなもので、目安にする際のポイントなどありますか？ (宮城県・会社員)

A

土地は衣服や食品のように頻繁に取引されるわけではなく、まったく同じ土地は二つとないという特性があります。また、取引する人の事情や動機によって価格が左右されがちです。そのため、土地の適正な価格がいくらであるか、一般の人にはわかりにくくなっています。

そこで、国土交通省土地鑑定委員会では地価公示法に基づき、全国の標準地(地域において大きさ、利用状況などが標準的な土地)について、このような取引者の特殊な事情などのない自由な取引で通常成立すると考えられる価格を公示しています。この制度を地価公示制度と言います。毎年1回1月1日時点の価格を公示しており、平成22年は約28,000地点の標準地について公示を行いました。

価格を知りたい土地と公示地点を比較することにより、たとえば、公示地点から比叡駅に遠いので安くなる、または、大通りに面し交通の便がよいので高くなるというように、条件を比較しておおよその価格を判断する際の目安にすることができます。ただし、公示価格は1月1日時点のもので、1月1日以降の地価動向も考慮する必要があります。



Q

海の上にも国道？

佐渡島へ旅行したとき、乗船した船のパネルに「この航路は国道350号線です」と書いてありました。国道はそもそも陸上にあるものだと思っていましたが、海の上にも国道は設定されているのですか？ またほかにもこのような例はありますか？ (大阪府・自営業)

A

海上を渡る国道は、全国で24路線あります。

一般に地上につくられた道路あるいは構造物(橋や海底トンネル)はなくても、フェリーポートなどによって、道路と道路とを結ぶ1本の交通系統としての機能があると判断できれば、国道と指定しています。

ちなみに、道路法第2条において「道路」とは、「一般交通の用に供する道で高速自動車国道、一般国道、都道府県道、市町村道をいい、トンネル、橋、渡船施設、道路用エレベーター等道路と一体となってその効用を全うする施設又は工作物及び道路の附属物で当該道路に附属して設けられているものを含むものとする」と規定されています。

海上を渡る国道の24路線は以下のとおりです。



新潟本土-佐渡島を結ぶ
国道350号の看板
(写真提供:佐渡汽船(株))

一般国道16号 (千葉県)	一般国道279号 (北海道)	一般国道384号 (長崎県)
一般国道42号 (三重県)	一般国道280号 (北海道)	一般国道389号 (熊本県・鹿児島県)
一般国道57号 (長崎県・熊本県)	一般国道317号 (愛媛県)	一般国道390号 (沖縄県)
一般国道58号 (鹿児島県・沖縄県)	一般国道324号 (熊本県)	一般国道436号 (兵庫県・香川県)
一般国道197号 (愛媛県・大分県)	一般国道338号 (北海道)	一般国道437号 (山口県・愛媛県)
一般国道224号 (鹿児島県)	一般国道350号 (新潟県)	一般国道485号 (島根県)
一般国道260号 (三重県)	一般国道357号 (東京都・神奈川県)	一般国道487号 (広島県)
一般国道269号 (鹿児島県)	一般国道382号 (佐賀県・長崎県)	一般国道499号 (鹿児島県)

(出典:「道路統計年報 2009 (道路利用研究会)」)

